

交通ICカードの利用実態とその意識に関する研究

福岡大学工学部社会デザイン工学科 辰巳 浩, 堤 香代子, 松浦 宏明, 渡邊 譲治

背景

近年、福岡県ではモータリゼーションの進展によりバスや電車等の公共交通利用者が減少

商業でも郊外型ショッピングセンターの増加により人の流れが郊外に流れる傾向が見られる

ICカードを導入し、公共交通の効率性・利便性向上と、都心エリアの商業地としての価値を向上させることが重要

公共交通の利用者、都心エリアでの買い物客の増加が期待できる

目的

2010年3月、西鉄のnimoca、JR九州のSUGOCA、福岡市営地下鉄のはやかけん、JR東日本のSuicaの相互利用開始

鉄道やバス乗降時、買い物での利便性向上

ICカード導入の効果に関する分析が未だ行われていない

アンケート調査を行い、ICカードの利用意識を把握と利用促進方策について検討を行う

アンケート調査の概要

日時: 2010年10月27日(水)
8時~18時

配付場所: 西鉄福岡駅ラッチ周辺
博多駅交通センター1階

配付回収方法: 調査員による配布、郵送回収

配付枚数: 各1500枚

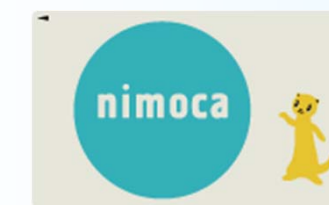
回収状況

配付場所	有効回収枚数(枚)	回収率(%)
西鉄福岡駅ラッチ周辺	498	33.2
博多駅交通センター	467	31.1
合計	965	32.2

ICカードの所有状況	回答人数(人)	率(%)
所有	836	86.6
未所有	129	13.4
合計	965	100.0

福岡県内の交通ICカード

nimoca (西日本旅客鉄道)



SUGOCA (JR九州)



はやかけん(福岡市交通局)



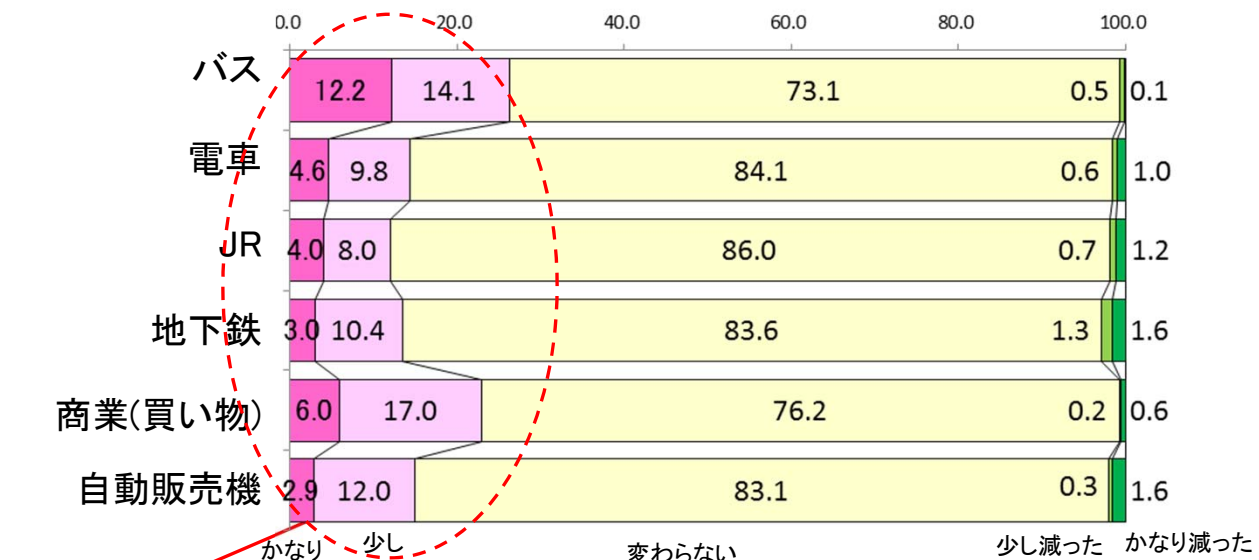
Suica (JR東日本)



2010年3月から相互利用開始

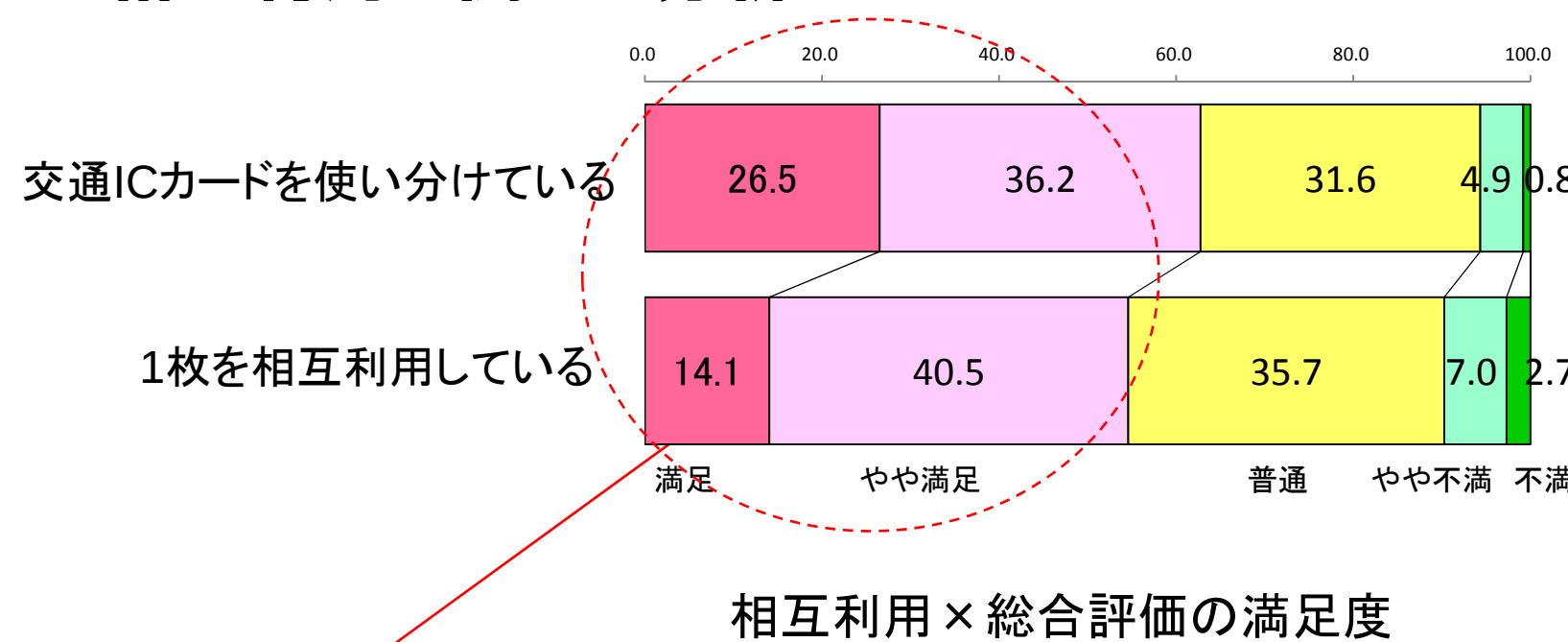
交通ICカード所有者に関する分析

ICカードを利用するようになってからの公共交通の利用や買い物へ行く回数の変化



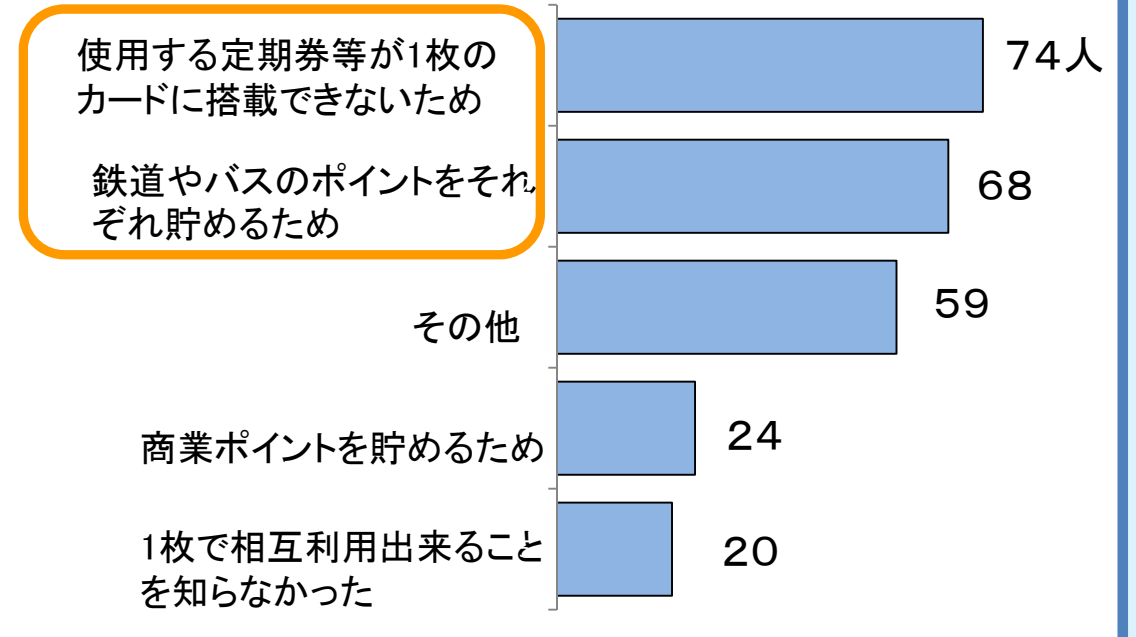
利用が増えた人も2割近くいることがわかる
ICカードの利用が公共交通の利用や商業利用の促進に繋がる

相互利用に関する分析



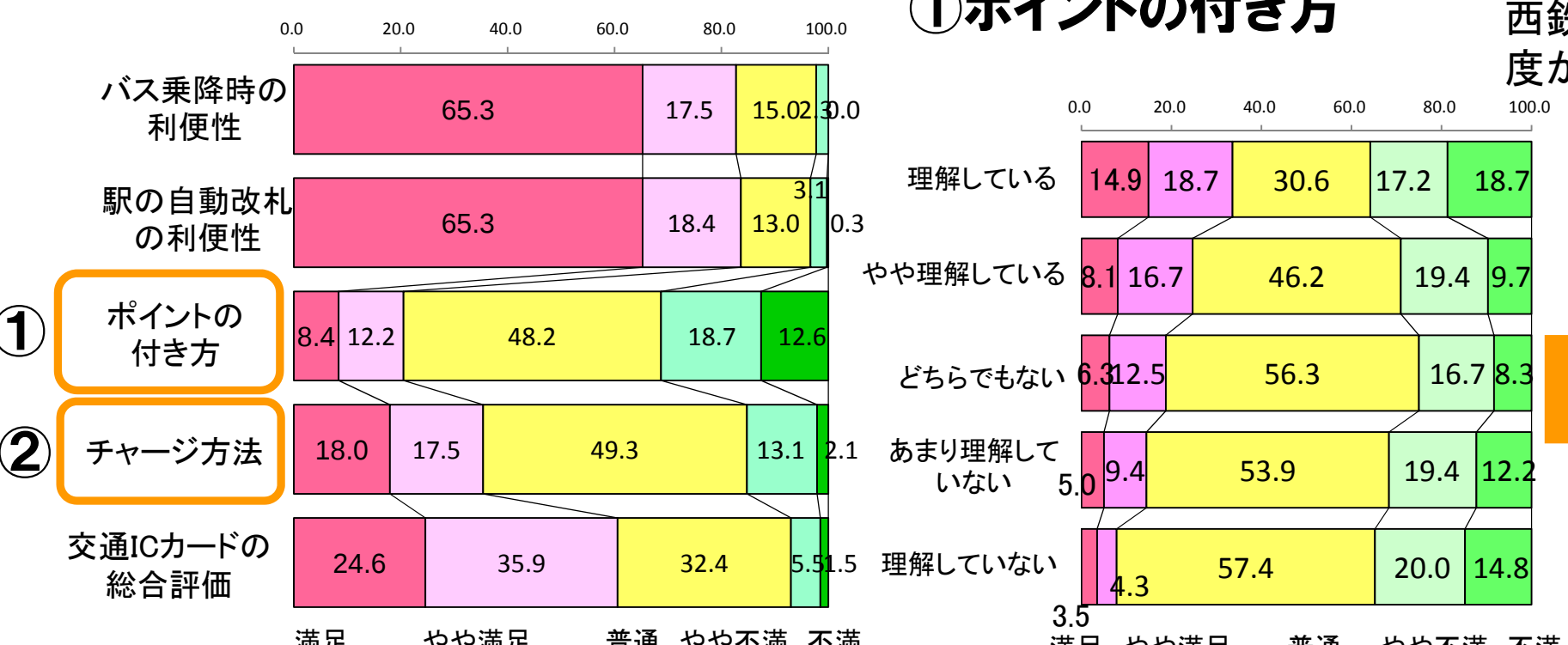
相互利用×総合評価の満足度
ICカードを使い分けしている人よりも相互利用している人のほうがICカードに対する満足度が高い

①ICカードを使い分けしている理由

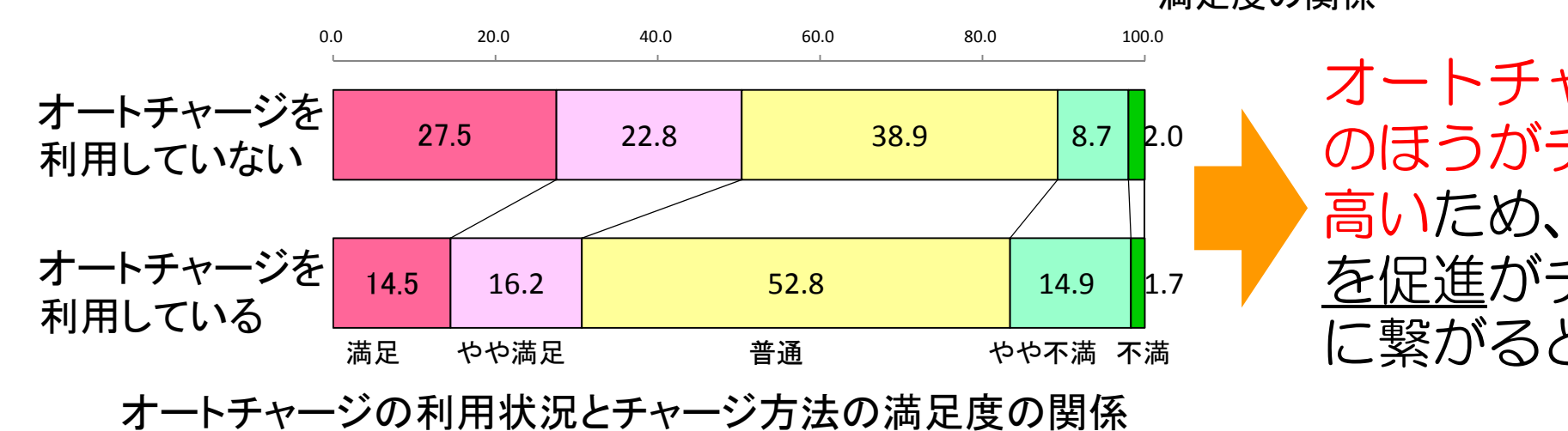


定期券を1枚に搭載できるようにし、さらにポイントも1枚のカードに付くようにする

満足度の低い項目への対策



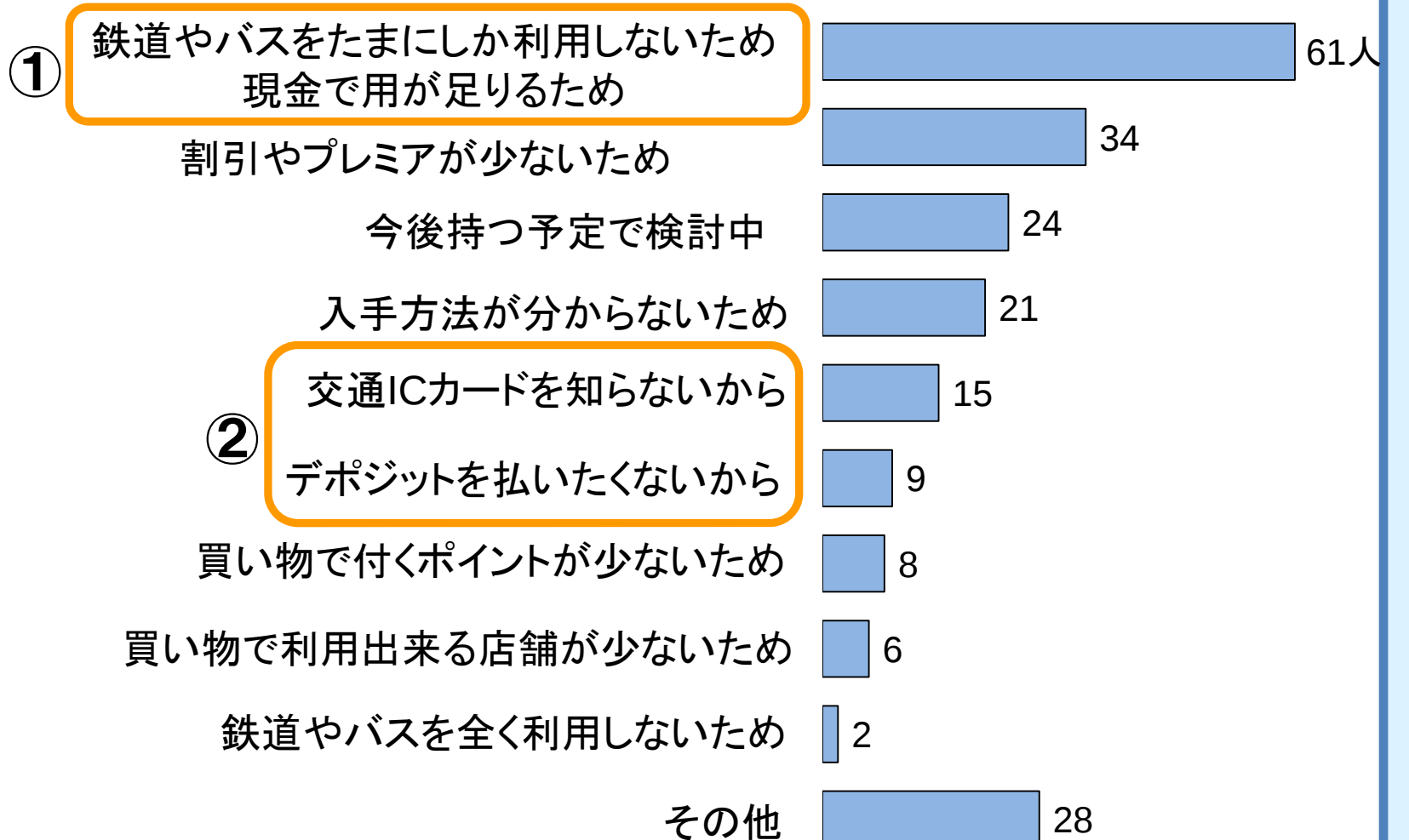
②チャージ方法の満足度



オートチャージを利用している人のほうがチャージ方法の満足度が高いため、オートチャージの利用を促進がチャージの満足度の向上に繋がると考えられる

交通ICカード未所有者に関する分析

ICカードを所有しない理由



①商業利用を増やすために利用できる加盟店舗数を増やす
②ICカードの認知度を上げるための広報活動に努める

まとめ

交通ICカード利用者の不満点

- ①「ポイントが少ない」
- ②「チャージするのが面倒」
- ③「定期券を1枚に搭載できない」

対策

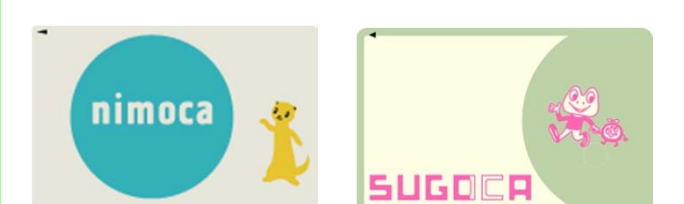
- ①交通ポイントの理解度向上のための広報活動
- ②オートチャージ利用促進
- ③3種類の定期券を1枚に搭載する

未所有者がICカードを所有しない理由

- ①「たまにしかバスや電車を利用しない」
- ②「入手方法がわからない」
- ③「交通ICカードを知らない」

対策

- ①鉄道やバスの利用以外に商業施設での利用を促進するために、加盟店舗を増やす
- ②③広報活動



利用促進に繋がる

